

(別添 10)

指定管理者による公の施設の管理運営状況

令和 5 (2023) 年度

施設名	栃木県とちぎわんぱく公園
施設所管課	県土整備部都市整備課
指定管理者	とちぎわんぱく公園指定管理グループ ・公益財団法人栃木県民公園福祉協会（法人番号9060005007605） ・栃木県公園事業協同組合（法人番号5060005007682）
指定期間	平成31（2019）年4月1日 ～ 令和6（2024）年3月31日

1 施設の概要

施設所在地	下都賀郡壬生町大字国谷 2 2 7 3
施設の概要	①指定管理者による管理面積 37.2ha ②主要な施設 ふしぎの船、こどもの城、ぱなぱなのまち、なかよし農園、カヌーの家、 虹の広場、たぬきのめいろ、はてなの広場、夢花壇、冒険の湖、 トンボの池、風の原っぱ、りんご並木 等
業務内容	①公園の維持管理に関する業務 ②有料公園施設の利用の許可に関する業務 ③公園の運営に関する業務

2 収支の状況

令和 5 (2023) 年度

(千円)

収入			支出		
指 定 管 理 ※2	指定管理料	125,700	指 定 管 理 ※2	事業費	18,210
	利用料金収入	5,689		管理運営費	76,204
	その他収入※1	2,472		人件費	42,757
				その他支出※1	7,720
	合計	133,861		合計	144,891
指定管理業務収支差額①					
▲11,030					
自主事業			自主事業		
54,963			56,670		
自主事業収支差額②					
▲1,707					
収支差額 (①+②)					
▲12,737					
備考 (※1 その他収入の主なものを記載)			備考 (※1 その他支出の主なものを記載)		
エネルギー価格高騰対策支援金 1,531千円			租税公課 7,720千円		

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

令和 4 (2022) 年度 (前年度)

(千円)

収入			支出		
指 定 管 理 ※2	指定管理料	125,700	指 定 管 理 ※2	事業費	14,654
	利用料金収入	5,292		管理運営費	80,016
	その他収入※1	8,465		人件費	42,248
				その他支出※1	6,973
	合計	139,457		合計	143,890
指定管理業務収支差額①					
▲4,433					
自主事業			自主事業		
51,283			50,696		
自主事業収支差額②					
587					
収支差額 (①+②)					
▲3,846					
備考 (※1 その他収入の主なものを記載)			備考 (※1 その他支出の主なものを記載)		
・雑収入 7,908千円			・租税公課 6,973千円		

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

3 利用状況

	令和 4（2022）年度 （前年度）	令和 5（2023）年度
公園利用者	7 6 7， 9 4 4 人	8 3 5， 2 8 9 人

施 設 名（利用料金施設）	令和 4（2022）年度 （前年度）	令和 5（2023）年度
ふしぎの船	3 9， 4 1 2 人	4 2， 9 3 4 人

施 設 名	令和 4（2022）年度 （前年度）	令和 5（2023）年度
体験学習施設	催し物回数 （延べ人数）	1 2 6 回 （9， 4 3 5 人）
		1 3 5 回 （1 1， 5 8 6 人）

4 サービス向上に向けた取組

（1）施設の利用・管理運営に関するサービス向上

- 新型コロナウイルス感染防止のために利用制限や休止していた施設について、5 類に移行され次第、速やかに制限解除・利用再開等を実施した。
（「ふしぎの船」の入場制限・利用時間の制限解除、こどもの城「ボールプール」利用再開、ばなばなのまち「くだものやさん」利用再開等）
- 感染防止と衛生面に配慮し、手指消毒用アルコールは施設入口などに継続して設置した。
- ふしぎの船、こどもの城、ばなばなのまちなどの施設は、繁忙期は休業日を設けずに営業した。
- シンボル花壇である「夢花壇」は、ガーデンデザイナーの設計により、季節感、色合い、品質に重点を置いて修景し、一年を通して花のある空間を提供した。
- 車椅子、ベビーカー、着替え用の子供服、靴、傘の無料貸出しサービスを実施した。
なお、貸し出しの際はアルコール消毒を行い、感染症防止にも配慮した。
- ふしぎの船では、シニア料金の設定やポイントカードの発行、消防団員や高齢免許返納者への割引などにより、シニア層やリピーターが利用しやすいようにした。
- こどもの城の旧レストランを無料休憩所として活用し、屋内で食事（お弁当）がとれるようにした。
- 花畑では、春は約 63 万本のセントーレア、秋は約 25 万本のコスモスを咲かせ、季節の花を楽しむようにした。また、花畑の中央に花見台を設置し、広大な花空間を見渡せるようにした。
- 問い合わせや要望をいつでも受け付けられるように、ご意見箱の設置や専用メールを開設した。
- ホームページの他、インスタグラム、グーグルビジネスプロフィールなどの SNS を活用し、公園の情報を発信した。
- ばなばなのまち広場のガーデンチェアを増やし、より多くの方が休憩できるようにした。
- 受動喫煙防止の観点から喫煙場所を見直し、更なる分煙化を進めた。
- ふしぎの船の利用案内看板は、子ども利用者でも理解できるように内容を変更のうえ更新した。
- 遊具は日常点検、月 1 回の定期点検、年 1 回の専門業者による総合点検を行い、遊具の設置状態を把握するとともに適切な措置を講じ、一層の安全性の確保と事故防止に取り組んだ。

（2）体験プログラムの企画運営

- 「自然体験」「農業体験」「つくるプログラム」等は、一年を通して体験できるようにし、参加者が四季折々の自然を感じ学べるような内容とした。
また、参加した子供たちが主体となって実践し、協力し合い喜びや感動を分かち合う活動となるよう取り組んだ。
- 人気の農業体験プログラムは、募集開始と同時に電話による申込が殺到し長時間お待ち頂いていたことから、ホームページに専用の募集フォームを作成するとともに、先着順ではなく一定期間募集のうえ抽選とするなど募集方法の改善を図った。
- 農業体験で試食会を行い、自ら収穫した作物の味を楽しめるようにした。
- 遠足の思い出づくりとして、「缶バッジづくり」「ヤギの餌やり」「園内クイズラリー」などの平日団体利用者用の体験プログラムを企画提供した。
- 平日の余暇活動で楽しめるように、「大人の陶芸教室」、「和紙ちぎり絵教室」などを実施した。

- ・公園の自然を感じながらヨガを楽しむ「パークヨガ」を企画した（雨天により中止）。

（３）イベントの開催

- ・都市緑化月間事業「とちぎグリーンフェスタ」を９日間開催した。栃木県１５０周年をテーマにした花壇修景を施したほか、ガーデニングコンテストや自然体験プログラムなど、公園と緑に親しめるイベントを開催した。
- ・ふしぎの船では、こいのぼり飾り、七夕飾りなど利用者が参加できるイベントを実施した。
- ・ハロウィンイベントや新年の書道作品展示、雛段飾りなど季節を感じられるようなイベントを開催した。
- ・１２月に虹の広場を電飾で飾るとともに、電飾トレインを走らせるクリスマスイルミネーションを開催して、幻想的な夜の公園を演出した。
- ・ピッピの着ぐるみを作製し、ピッピとの「じゃんけん大会」やグリーティングなどを実施した。

（４）地域貢献、地域の活動拠点づくり等

- ・誰もが公園ボランティアに参加できるよう、令和４年度に発足した「わんぱく公園友の会」の様々な活動に対するサポート事業を継続して実施した。
- ・夢花壇及び南口花壇は、緑化ボランティアとともに管理し、四季折々の草花で彩られた花壇修景を行った。
- ・「道の駅みぶ」連携事業の一環として、隣接するおもちゃ博物館、町総合公園、ハイウェーパークの利用促進に貢献するため、週末ごとに各施設入口付近に停留所を設けたわんぱくトレインを運行した。
- ・愛パークとちぎ事業を推進し、地域住民や企業等が継続的に環境美化に取り組めるよう支援した。
- ・公園花壇の一部を活用し、県民が花壇づくりから管理まで取り組める「私たちの花壇事業」を企画実施した。
- ・公園で収穫したリンゴをイベント参加者や来園者へ配布したほか、公園近隣の大学病院へ配布した。
- ・なかよし農園の田んぼで収穫した米を壬生町社会福祉協議会へ提供し、イベントを通して、地域住民へ配布された。
- ・地元幼稚園・小学校等が出品する「かかしまつり」や、「道の駅みぶ連絡推進協議会」と連携した「トマトのマルシェ」を開催した。
- ・高校生の職場体験や中学校の清掃ボランティア活動などを積極的に受け入れ、活動を支援した。
- ・壬生町や壬生町観光協会が主催の「花火大会」では、会場提供や環境整備を行うなど運営に協力した。
- ・壬生町関係課、近隣幼稚園、小学校、自治会の代表者で構成する「とちぎわんぱく公園連絡協議会」を運営し、公園の事業について報告するとともに、意見交換や要望などを聴取した。
- ・地元の小学校に出張し、プランターの花植え授業を実施した。（３校、１５３名参加）
- ・とちぎグリーンフェスタでは、地域の活動拠点として、緑化団体が運営する講習会や手作り作家が集う「ぐりーんぐりーんまるしぇ」などを開催した。
- ・音楽演奏やダンスなどの活動発表の場として、園内のステージが利用できる「みんなのステージ」事業を開始した。

（５）自主事業

- ・動く恐竜たちと出会い、恐竜の時代を「見て」「感じて」「想像」できる「大恐竜パーク」を新規オープンした。
- ・広い園内の移動手段として、また、ゆっくりと風景を楽しめるように、園内を周回する「わんぱくトレイン」を土日祝日に運行した。
- ・土日祝日に「ふわふわスライダー」、「縁日」、「キッズボート」などの遊びのアイテムを増やした。
- ・土日祝日に軽飲食テント売店やキッチンカーを出店し、利用者の食に対するニーズに応えた。
- ・バッテリーカーやラジコンボートなどの小型遊具を設置し、小さい子でも楽しめる遊びを増やした。
- ・コイのエサやりが楽しめるようにコイのエサの自動販売機を設置した。

5 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法				
・管理事務所に意見箱を常時設置し、ご意見票を回収 回収件数 1 3 7 件				
主なご意見票の項目	良い	良い方	あまり良くない	悪い
公園内はきれいでしたか	5 9 . 4 %	3 5 . 2 %	3 . 9 %	1 . 6 %
公園の管理状況はいかがでしたか	5 4 . 5 %	3 8 . 8 %	3 . 3 %	3 . 3 %
花壇や樹木などの植物の管理状態は いかがでしたか	6 3 . 5 %	3 4 . 8 %	1 . 7 %	0 . 0 %
スタッフの対応はいかがでしたか	6 7 . 3 %	3 0 . 1 %	2 . 7 %	0 . 0 %
・ホームページで意見を受付 ・ボランティア団体意見交換会を開催し、意見・要望を聞き取り ・とちぎわんぱく公園連絡協議会を開催し、意見・要望を聞き取り				
主な利用者意見（苦情・要望）		対 応		
・（ふしぎの船の）レーザーの的が何個か壊れています 。「センサーのふしぎ」のセンサーが両方とも感度が以 前より悪くなっているように感じます。		・原因究明のうえ適切に対処いたします。		
主な利用者意見（積極的評価）				
・「ふしぎの船」小学生のみならず大人も一緒に楽しめる施設で驚きました。また、遊びに来たいと 思います。 ・ピッピーとピコがスタジオジブリから生まれたのを今日知りました。もっとアピールした方が良いと 思います。ピッピーを探せスタンプラリーみたいなものがあると楽しいと思います。				

6 指定管理者による自己評価

成果のあった取組・積極的に取り組んだ事項・利用者満足度向上への取組
- コロナ5類移行に伴う休止施設の再開、「大恐竜パーク」などの新規の利用促進策を展開した結果、利用者数を83万人台まで回復させることができた。 - 公園のシンボルである「夢花壇」は、季節を問わず約60種類、約1万株の様々な草花を観賞できるようにしたところ、フォトスポットや散歩コースとしての利用が増え、このエリアに前年より約4,000人多く訪れるようになった。 - 報道機関等に対してイベントや見頃の花などの情報を積極的に提供した。また、インスタグラムやグーグルビジネスプロフィールなどでも配信をこまめに行った結果、新聞・テレビ・雑誌などへの放送、掲載が年間で約50件あった。（前年度約40件） - 地域イベントや首都圏でのイベントにおいて、ピッピーの着ぐるみによるグリーティング活動を行い、幅広く公園のPRに取り組んだ。 - 公園で育てたリンゴを近隣の大学病院に配布し、感謝状をいただいた。 - 体験プログラムの活動が評価され、財団法人さぶん環境・文化プロジェクトより、「審査員特別賞・地域文化SDGs賞」をいただいた。 - 活動を支援しているボランティア団体「夢咲人」が「みどりと公園の愛護功労者」として2回目の表彰を受けた。 - 足を折り畳んだ状態のテントが突風により飛ばされた事故の再発防止を図るため、「イベントテント設置要領」を定めた。 - 公園管理運営士など公園管理運営技術に関する有資格者を配置し、質の高い管理運営に取り組んだ。 - 災害発生時のマニュアルを整備し、来園者の避難誘導、非常時のエレベーター救出等の訓練を実施

することにより安全確保に努めた。 ・巡回による安全確保と防犯を徹底した。 ・危険性が予想される箇所の把握、潜在的な危険を把握し、スタッフ全員に周知徹底した。 ・一括契約、一括購入により経費節減を図った。 ・朝礼時において、連絡、注意事項、笑顔の徹底を図った。 ・植栽管理等において、指定管理グループとして、大型機械や大人数による短期集中の一括管理を行い、作業の効率化を図った。 ・管理作業マニュアルを活用し、管理作業に携わる全従業員に安全教育を行った。	
地域との連携を推進し、地域活性化に向けた取組	※指定管理者が独自に設定
・壬生町が設置した「道の駅みぶ活性化検討委員会」に参加し、当駅の主要施設として活性化基本計画の策定に向け協議した。 ・町が進めたデジタルコンテンツ「XRシティみぶ」に協力し、公園の魅力増進と利用促進を図った。 ・北関東フラワーパーク協議会に参加し、令和5年度の活動実績と次年度以降の取り組みについて協議した。 ・愛パークとちぎ事業や私たちの花壇事業を推進し、地域住民や企業等が継続的に環境美化に取り組めるよう支援した。 ・みぶハイウェーパークの協力を得ながら「トマトのマルシェ」を開催して、壬生町の特産品であるトマトのPRを行った。 ・秋の「かかしまつり」では、地元幼稚園、保育園、小学校（学童）、中学校に作品を出展していただき、リンゴの収穫を願った。 ・とちぎグリーンフェスタでは、花や緑に関心を持つきっかけづくりとして、地元の小学生による寄せ植えづくりを行い、わんぱく公園に飾って多くの来園者に見ていただいた。 ・みぶハイウェーパークと協働で、地元の特産品であるかんぴょう（ふくべ）を使ったお雛様を作り、わんぱく公園とみぶハイウェーパークに飾ってお互いの施設を紹介しながら、かんぴょうが壬生町の特産品であることも紹介した。 ・体験プログラムでは、県内で活躍する方々や団体に講師等でご協力いただいている。 ・障害者福祉連合会と連携し、障害者施設による出店販売を行った。	
今後改善・工夫したい事項	
・施設の老朽化が進み修繕箇所が増えているので、安全管理を考慮した上で県と連携・協議を勧めながら予算の効率的な執行に努めていきたい。 ・県内外の誘客及び地域活性化を図るために、「道の駅みぶ活性化検討委員会」や「北関東フラワーパーク協議会」等のネットワークを活かし、積極的に連携事業等を実施したい。 ・常に魅力ある公園であるために、公園利用者ニーズの把握や管理運営に関する情報収集に努めたい。 ・老木化、高木化による事故防止のため、県と協議を図りながら樹木の適正な管理に努める他、倒木や枯損木の伐採が増えていくため、計画的に新たな苗木を植栽し、育成する必要がある。 ・公園外周（県道172号線沿い）の樹木は、高木化により枝が歩道・道路に越境し、落枝や接触のリスクが高まっているので、剪定等を実施し事故防止を図りたい。 ・大恐竜パークでは、夏休み特別イベントの開催や、売店コーナーの設置、発掘体験などを実施し、さらなる魅力向上を図りたい。 ・とちぎわんぱく公園、おもちゃ博物館、ハイウェーパークを巡るスタンプラリーを企画し、各施設の回遊性を高めたい。 ・「風の原っぱ」や「ふしぎの船・はてなの広場」でも飲食サービスが提供できるように、キッチンカーの出店エリアを拡大したい。 ・ぱなぱなのまちに平日でも遊べるような小型遊具を新たに設置し、遊びの充実を図りたい。 ・パンフレットの内容の見直しとデザインを刷新するとともに、新たにポスターを作成し、公園を更にPRしていきたい。 ・引き続き事故・災害ゼロを目指し、栃木県や他公園から提供される情報の活用や、定期的な作業ミーティングなどに取り組み、常に安全で安心な公園を提供していきたい。	

7 所管課室による評価

項目	評価の内容	確認内容・所見等	評価
1. 住民の 平等利用の 確保	① 住民の平等利用が確保されたか。	適切に実施されている。	B
	② 使用許可に関する権限が適正に行使されたか。	所定の手続きに則り、適切な許可が行われている。	B
	③ 高齢者、障害者等に対する配慮はなされたか。また、平等利用が確保できない場合の対応は適切か。	高齢者や身障者に対し配慮するなど事業計画書どおりされている。また、園内売店においては、障害者就労施設で製造される商品を仕入れ販売している。	B
2. 施設の 効用の最大 限発揮	① 施設の設置目的に沿った業務実施がなされたか。	事業計画に基づき、施設の設置目的に沿った業務が実施されている。	B
	② 施設の利用促進、県民サービスの向上が図られたか。	「大恐竜パーク」「ラジコンボート」を新設し利用促進を図った。	A
	③ 利用者満足度を把握し、満足度の向上が図られたか。	利用者の満足度は昨年並みだった。	B
	④ 利用者からの意見、苦情に対して適切な対応がなされたか。	要望・苦情に対して、適切且つ迅速に組み対応している。	B
	⑤ 施設、設備、備品の維持管理や安全管理は適切になされたか。	日常・定期点検を実施し、その記録が保管されているとともに、管理打合せ簿にて修繕の提案・修繕実施報告され、その修繕履歴が適切に保管されている。また、備品の管理は適切に実施されている。10月にイベントのため設置したテントによる事故が発生している。	C
	⑥ 指定管理者の創意工夫により業務改善等がなされたか。	SNS等で公園情報の発信をしたり、ピッピの目線で公園の魅力を投稿するなど閲覧者が楽しめる工夫を行った。また、園内などで着ぐるみピッピのグリーティング活動を実施して幅広いPR活動に取り組んだ。	B
3. 管理を 安定的に行 う物的人的 基礎	① 組織体制は適正か。	当該業務を概ね適切に遂行できる組織となっている。	B
	② 収支は適正でバランスがとれたものか。	概ね適正である。	B
	③ 経費の縮減に取り組まれてきたか。	事業計画書どおり多目的、多用途に従事するスタッフを配置し人件費を削減するとともに、保険契約等は一括契約を行い経費削減に取り組んでいる。	B
	④ 人材育成は適切に実施されているか。	公園管理に必要な資格の取得や技術と能力を向上するため、事業計画書に基づいた研修を実施した。	B
	⑤ 危機管理体制（事故、緊急時の対応）は確保されているか。	緊急時連絡体制により、関係部署との連絡体制は確保できている。また、事故・異常気象時の対応も適切に対応・報告がなされていた。ただし、安全管理が適切に行われず、利用者が被災する事故が発生した。	C

	⑥ 県や関係機関との連携体制は確保されているか。	県や関係機関と連携し、管理運営を行っている。	B
4. 個人情報保護	① 個人情報の保護についての措置が計画どおり実施されているか。	個人情報の保護に関する要領を定め、適切に保護している。	B
	② 情報公開は適切になされているか。	情報公開事務処理要領を定め、適切に運用している。	B
5. その他	① 施設の特性にふさわしい自己評価がなされているか。	適切な自己評価が行われた。	B
	② 自主事業が計画どおりに実施されているか。	自主事業について、適切に実施された。	B
	③ イベント等を実施している場合は、地域との連携が図られているか。	地域団体・企業・住民等との連携事業である「かかしまつり」や「道の駅みぶ連絡推進協議会」と連携した「トマトのマルシェ」などのイベントを実施した。	B
	④ 環境への配慮（騒音・光害対策、ごみ削減等）がなされているか。	公園利用者にはごみの持ち帰りをお願いするほか、枯枝や支障枝剪定後、自前でチップ化し植栽エリア等にまくなどゴミの縮減に努めた。	B
	⑤ その他管理運営上の特記事項	新型コロナウイルス感染症対策を図り安全な管理運営を実現した。	B
総合的な評価			
・令和5年度の利用者数は、前年度から約67千人増の835千人となった。 ・自主事業として新しい施設の運営を開始し、従来からある施設も含めて公式SNSでの積極的な広報を行うなど公園の魅力アップと利用者数の増加に努めている。 ・施設運営時の安全対策を強化することで、より良い公園運営に取り組んでほしい。			

※「評価」欄には、以下の指標により判定した結果を記載すること。

- A：事業計画に対して優れた取組となっている。
- B：事業計画どおりの取組となっている。
- C：事業計画に対して劣る取組となっている。
- D：事業計画に対して著しく劣る取組となっている。